

# こども病院の人工島移転 撤回を求める署名 2万 提出



2011年9月14日、署名を市議会に提出

こども病院の人工島移転に反対する連絡会(代表・石村善治福岡大学名誉教授)は9月14日、福岡市議会に対し、同病院の人工島移転の撤回と、市民の声を反映した建て替えを求める署名を、1万9505筆ぶん提出しました。7人が紹介議員となりました。提出には、日本共産党福岡市議団も同席しました。

## 6点の問題を指摘

## 早期審査をもとめる

提出にあたり石村代表は、① 0.0㎡の広さが必要ないこと、移転は市内の小児専門医療の⑥ こども病院移転計画調査委員会の報告書の立場に立てば、バランスをこわすこと、② 妊婦や新生児の搬送に懸念があること、③ 専門家からも防災上不安の声があがっていること、④ 高額な個室料を計画の前提にしていること、⑤ 1床あたり1

市議会は独自に論議し直すべきであることなど6点にわたる問題点をのべ、「早期の審議をお願いしたい」と署名を市議会事務局に渡しました。



## 宮本秀国市議が入札や 防災の問題をただす

市が人工島に移転しようとしていることも病院の施設整備について、その業者選定の入札が1者のみだったためやり直しとなったものの、今回の入札でも1者となったまま、やり直し前と同じ業者(九電工・松本組グループ)に決定しました。

宮本市議は1者では競争入札とはいえない、初めから業者は決まっていたのではないかと追及。市側は「競争性は保たれている」と強弁しました。

さらに、人工島が地震や津波など防災上危険な場所だという専門家の指摘や、過大な病床数計画が経営を圧迫する懸念について宮本市議が問いただしても、市側は問題ないとする態度に終始しました。



9月9日、一般質問に立つ宮本市議